

菊



育苗

挿芽床の土の準備
散水時に散布
(灌水・葉面散布)



川砂・パーライト等の床に、1アール当り
 ●米ヌカ15kg、ラクトバチルス100gを混ぜ1ヶ月以上おくと苗が充実。
 (硫安5kg程度)
 ●根っ酵素500倍液 →根を強く動かし新芽の生長を促進。
 ※収穫後の切り下株から腋芽(冬至芽)を伸ばす時、
 母株を摘芯して腋芽を伸ばす時、
 挿穂を床に挿芽する時、そして挿芽後1週間ごと
 上記の時期には根っ酵素を薄めて散水し、根から旺盛に生長させる。
 これで白サビや土壤病害にも強くなる。
 ※もしチッソが強すぎたり、徒長が心配な場合は、花咲くCa液500倍で、
 葉を厚くし苗を充実させる。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
本畑の地力作り	なるべく早い時期に投入して耕耘 (特に米ヌカや未熟物を使う場合は2ヶ月以上おく)	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g →排水がよく肥沃な土を作る。白サビ対策も ●堆肥1トン以上または有機物(米ヌカを使う場合150~200kg) ●硫安60kg(もし通常の複合肥料ならチッソ成分12kg程度) ※このチッソは有機化・地力化して、ジワジワと効く。 植付け時の土壌がEC:0.2以下と適当な範囲になる。 ※もし堆肥・有機物の量が少ない場合は、NPK三成分の複合肥料を施し、なるべく日数をおく事。(各成分12kg程度) ※堆肥・有機物を多量に投入し、硫安も多く(~100kg)施用する方法もある。植付け迄に20日以上おく事。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に全面散布、 またはウネ上に散布	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 60kg前後 ※土壌pH:6.5以上と高い場合は畑の大将<赤>を施す。 <ul style="list-style-type: none"> ●マンゾク粒状50kg →発根・生長の促進、線虫・土壤病害対策。 ※特に心配な園で農薬の土壤消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、ラクトバチルスを補う。(上記は同時施用可能)
植付け時	植付け直後の灌水の時に	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液 →活着・初期の根張り促進。ハガレセンチュウ・土壤病害軽減。
前半	植付け後40日、 花芽分化期まで 灌水使用 (灌水は回数少なく、一度の量は多く)	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素2~5ℓを倍率適宜で灌水 ※土の深層が乾燥しないようタツプリ灌水。その際、15日間隔程で根っ酵素を使用すると、根の力が強くなり、軸太く葉序が揃い、葉にテリが出て、しかもチッソ過多にしない。葉先が褐変したり萎れたりする時は、直ちに施用する。また摘芯をする場合はその日に使用する。 ※もし葉色が薄くチッソ不足の時は、メガデルトン・ネオスリー800倍を葉面散布。また葉が黒く広がりチッソ過多で、黒斑等、葉の病気が多い場合は、花咲くCa液500倍を葉面散布。これで葉を厚く充実させ、生育を引締め、花芽分化に備える。
追肥	花芽分化期 ※同時施用可	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安20~30kgまたはアミノ酸液10ℓ灌水 ●畑の大将<青> 20~30kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は畑の大将<赤>を施す。
後半	花芽分化後 葉面散布	<ul style="list-style-type: none"> ●花咲くCa液500倍 →開花が揃って進み、花が大きく長持ちする。 ※花芽分化後6日で上部の腋芽が伸び始め、摘芽する頃に第1回、以後は半月間隔で葉面散布し、最後の仕上げは収穫7日前に。 ※状態によりネオゲン等を葉面散布して葉色を濃く調節。 ※後半に根っ酵素を灌水すると、花首が太く直立する。